

福井県経済社会活性化戦略会議 提言骨子

チャレンジ福井の創造をめざして

平成 15 年 12 月 7 日

1 産力強化

みらい技術の創造

産力戦略本部の創設

知事をトップとする「産力戦略本部」の創設

「みらい技術の創造」を推進するため予算を大幅に増額し、集中的投資

産力戦略本部がコーディネーターとして産学官共同研究の実施を促し参加企業数を倍増

「最先端技術のメッカ」づくり

比較優位を有する技術分野に予算、人員などの経営資源を集中的に配分

最先端技術の事業化・新商品開発を積極的に支援

"エネ・ワールド" づくり

本県をアジアの原子力を中心としたエネルギーの総合的な研究開発拠点基地にするため、国、関係機関と連携して「エネルギー研究開発拠点化計画」を策定

原子力関連の人材育成やエネルギー研究開発の関連施設設置を国に強く要請し実現

原子力発電所維持管理技術の県内移転を促進

はばたけチャレンジ企業

創業バリアフリー "日本一"

(財)県産業支援センターに、(財)県デザインセンターおよび(財)県中小企業産業大学校を統合
地元金融機関と連携して、最高1億円の無担保の融資が受けられる創業支援プログラムを創設

民間資金を活用した「ベンチャーファンド」を創設

セールスサポート体制の充実

「南青山291」、東京・大阪事務所の県産品の販売機能を充実

「東アジア・マーケット開拓戦略プラン」を策定し直ちに実行

1店1品運動の展開

各商店がそれぞれの特徴を活かした他店にない商品を販売する「1店1品運動」の取組みを支援

ウェルカム 元気な企業と人

アタック500

知事がトップとなって企業誘致を推進(目標、年間延べ500社)

県内に立地する原子力発電所の関連企業に積極的な誘致活動を展開

ウェルカム 元気な企業

情報サービス業をはじめ優良企業に対する企業立地促進補助金を拡充

ウェルカム 元気な人

本県に元気な企業家や優秀な研究者、意欲と知識を持った人材を誘致

夢のある農林水産業

家業から企業へ

これまでの慣習にとらわれず、旧村程度の範囲をカバーする広域営農体制の展開など、新しい経営感覚の導入や経営の大規模化、法人化を積極的に支援

「健康・長寿」をブランドの重要な要素として、ターゲットを絞った販売戦略を展開

福井楽農

伝統野菜や農産加工品、伝承料理などの地場産品販売システムを構築

市街地の空き店舗を利用した直販店を開設し地場産品の販売を促進

山の力の再発見

児童生徒の教育の場やエコ・グリーンツーリズムなどの観光資源として里山を活用

森林所有者が利益を得られるような伐採・搬出システムを構築

海の宝さがし

海産物の加工などによる新商品開発や新規販路開拓に対し積極的に支援

2 人財創出

"みらい人財" の育成

ビジネススクールの開設

早急に県立大学にビジネススクールを開設

"みらい人財" 育成

ビジネススクール開設までの間、「プレビジネススクール」を開講

社会人等が短期でより実践的な経営学等について学べる「ディプロマ・コース」を導入

職づくり・人づくり・出会いづくり

職づくり

「総合的な雇用創出プラン」を早急に作成し、職づくりを全力で実施

人づくり

高校、大学、産業技術専門学院等において、IT・金融・福祉などの専門教育を充実

産業技術専門学院において、企業実習と一体となった実践的な職業訓練を導入

出会いづくり

「若年者就職支援センター（ジョブカフェ）」を創設

自治体が無料で職業紹介を行う「人と職の出会いセンター」を創設

3 地域力躍進

女性力のアップ・熟年力の発揮

女性力のアップ

NPO等が一時保育、家事代行などきめ細かなサービスを行う「すみずみ子育てサポート事業」を実施

熟年力の発揮

「熟年人材バンク」を創設し人材情報の提供を実施

地域助け合いビジネスの創出促進

地域の課題を地域住民自らのアイデアで解決する「地域助け合いビジネス」の創出を促進するため、「地域助け合いビジネス塾」を開設

地域IT力の強化

ブロードバンドによる情報通信基盤の整備

ブロードバンド普及率を3倍にするなどITを活用した豊かな暮らしづくりの基盤を整備

ITによる豊かな暮らしづくり

地域パソコンマスターによるIT教育の充実など情報リテラシーの向上

ITビジネスの活性化

県内中小企業が取り組むIT技術の導入・活用を積極的に支援

4 独創福井

ふくいブランドの進化

「ふくいブランド」の進化

「健康・長寿」、歴史、祭、県産品などの地域資源を、専門家のアドバイスを得ながら、それぞれのブランド・イメージを高め、県全体のイメージとなる独創的な「ふくいブランド」に進化

「ふくいブランド」のマネジメント

全国に誇れる福井県の魅力や特色ある県産品などの「ふくいブランド」のイメージを県民運動として継続的に発信

住民が手作りで各地域の地域ブランドを創造する活動を支援

ビジット "ふくい"

歴史再発見

一乗谷朝倉氏遺跡、若狭の国宝群、東尋坊、永平寺などを融合させストーリー性のある観光ルートを開発

心の観光

永平寺や若狭の国宝級社寺と本県の健康・長寿、食、自然、温泉と結ぶことで「やすらぎ」の旅を提案

エンジョイ "スローライフ"

福井の田舎で都会の人がスローライフをエンジョイする「福井型エコ・グリーンツーリズム」を推進
一般農家、漁家、工房等を活用した民泊をホームページ等も活用し推進

ビジット "ふくい"

それぞれの地域ブランドを活かした観光ルートを開発(例:長寿食めぐり、そば街道)

ホスピタリティの充実

地域の手作り観光や清掃活動等を支援するなどホスピタリティの向上を促進

観光振興業務のアウトソーシング

旅行エージェントなどを積極的に活用し観光振興業務を大胆にアウトソーシング

5 行政革新

提言の実行に当たって

この提言に基づく具体的な事業展開に当たっては、「成果主義」、「顧客主義」、「事後評価」という「ニュー・パブリック・マネジメント」の考え方を県行政に徹底